

竜王南小学校 学校関係者評価書

令和7年2月19日（水）

甲斐市立竜王南小学校 学校関係者評価委員会 作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和7年2月19日（水）午後3時30分～4時15分

会場：竜王南小学校会議室

参加者：（学校関係者評価委員） 6名出席 1名欠席

学校運営協議会委員 梶原 照夫 鶴田 重雄 米山 壽浩 保坂 秀人

P T A正副会長 清水 静香 大柴 麻美

学校側 校長 本田 司 教頭 長田 健一

教務主任 望月 宏樹 生徒指導担当 吉田 圭太郎

I 学校側から提案された内容

（1）教職員の自己評価及び改善策

（2）児童・保護者アンケート結果

II 協議された主な内容

（1）自己評価（教職員・児童・保護者）の結果から

（2）その他

<学校関係者評価書>

I 全体評価

○自己評価の結果は、A B評価が高い水準にあるといえる。

・全39問中、38の設問で肯定的評価（A・B）が85%以上となった。今年度も教育活動全体的に高い自己評価の数値となった。中でも「ICTの効果的な活用」のA B評価が95%以上と高くなっていることから、ICTの「効果的な活用」に対して研修や授業での積極的活用に取り組んだ成果が表れていると考える。

◇現在、甲斐市教育委員会で提供するアプリ等を使用していることや、市内各校のICT教育推進委員による情報の共有により活用を模索していること、各学年に応じたタブレットの活用方法を進めていると説明した。

◇教職員の自己評価で、「先生方は日々実践していることは自信をもってもらいたい。B評価ではなくA評価を付けてもいい項目があるのではないか。」という意見をいただいた。教職員に周知をしたい。

○児童アンケートの結果では、学習状況で肯定的な結果が多く見られるが、他の設問に課題が見られる。

・昨年度は、本校の課題ともなっている「朝ご飯を食べて登校しているか。」の児童アンケートのC D評価が6.2%となり、一昨年の11.3%から減少傾向にあったが、今年度はC D評価が9.8%で再び増加傾向にある。（本校C D評価の人数/29名、甲斐市全体のC D評価は5.9%）望ましい生活習慣や食育の観点からも摂取率100%を目指すことを説明した。

◇朝ご飯を食べていない児童が一定数いることを踏まえ、「摂取率100%を目指してほしい。」との意見が出た。また「食べられない状況にあるのか、朝起きられずに食べない習慣になってしまっているのか。」など、朝食を食べてこない原因はどこにあるのかを多面的に考えていただいた。今後、学級指導や食育・保健・体育的な視点で指導をしていくことを伝えた。保護者への周知も併せて行っていく。

II 特徴

○自己評価では、7設問中5設問でA B評価が100%となっている。

・今年度は甲斐市のICT教育推進事業の研究指定を受けたこともあり、教職員のI

ＣＴ活用への意識及び活用状況は高い状態である。ただ「効果的に使う」とは、これまでの授業実践との最適な組み合わせを表すことから、タブレットを使えばよいのではなく、これまでの実践による教育効果をタブレットでより高めることはできているかということになる。今後も質の高い「ＩＣＴの効果的な活用」を目標に取り組んでいく必要があると説明した。

○児童アンケートでは、「４ 学校の授業は楽しいですか。」のＡＢ評価が 93.4%で、昨年度の 95.3%と同様の結果となっている。

・児童アンケート「５ 先生はよく勉強を教えてくれるか。」はＡＢ評価が 98.7%となったが、教職員、保護者との意識のずれがある。

・児童アンケート「６ 国語の授業内容はわかりますか。」は、ＡＢ評価が 95.0%、ＣＤ評価が 5.0%（15名）となった。また、「７ 算数の授業内容はわかりますか。」は、ＡＢ評価が 94.4%、ＣＤ評価が 5.7%（17名）となった。甲斐市全体と比べても、ＡＢ評価は高い数値となっている。

・「９ 授業でわからないことを先生に聞いているか。」は、ＡＢ評価が 82.6%だが、Ａ評価が 50.0%となっており、半数の児童が実践できている。校内研究会では対話の価値を重視した研究を進めていることから、授業者と児童の信頼関係が深まっていることと授業への意欲が高まっていることが高水準で結果として表れている。学習内容の理解を深めていくにはとても重要な項目であるので、今後はＣＤ評価の児童へのアプローチが必要となる。

◇本校の児童は、「よくあいさつをしてくれる。」という評価をいただいた。家庭の教育力や高学年の姿を低学年がお手本としているなど、学校生活が充実していることを感じるという意見をいただいた。

○生徒指導の項目で、「いじめ・不登校の実態」について説明をした。

・いじめについては、どんな些細なことでもいじめとして認知していくことを前提に、「いじめアンケート」を実施している。また不登校については、一人一人の原因が様々であるので、個に寄り添った対応を組織的に取り組んでいることを説明した。

◇不登校にかかわって、「相談できる教師がいますか。」の保護者アンケートの評価が低い。学校というよりは、保護者同士の連携や地域の働きかけも必要ではないかと意見をいただいた。地域で子供たちを育てるという意識はありがたいと感じた。

Ⅲ 今後の課題として意識されたこと

・朝食の摂取率が昨年度より下がっている。甲斐市全体の割合と比較しても低い数値になっている。今後、学校としては保護者と連携し教育活動全体を通して、課題克服に取り組んでいく。

・不登校児童の対応については、個に寄り添った対応を組織的に取り組んでいく。キャリア教育を核として教育活動全体において課題の解決に向かって取り組んでいく。児童が主体的に自分の生き方を考えていけるよう、家庭とも連携していく必要がある。

・学校現場においても、急速に変化していくＩＣＴ環境に対応していくために、今後も教職員全体で研修に励む。

・スマホ・携帯の安全な使い方を保護者に周知徹底し、連携して取り組んでいく。

※特記事項

特になし

記載責任者 竜王南小学校 学校関係者評価委員 氏名：清水 静香

